

ジンガイマキョウ
PRESENTS

心
あはれ
たる
エメに
神
は。

R-18
for ADULTS

心
あはれなる人
に
あはれを。
あはれは。



元々、私かここでどんな扱いをされていたか聞く？
何のために建物のあちこちに隠し部屋があるのかとか。
俗物すぎてきつと君は耐えられない。



ゆずかちちゃん。
お友達。

おかあさん。

八百屋さん。



やさしい。
大好き。
村のみんな。

みんな…



ごめんなさい

ごめんなさい

ごめんなさい

ごめんなさい

ごめんなさい

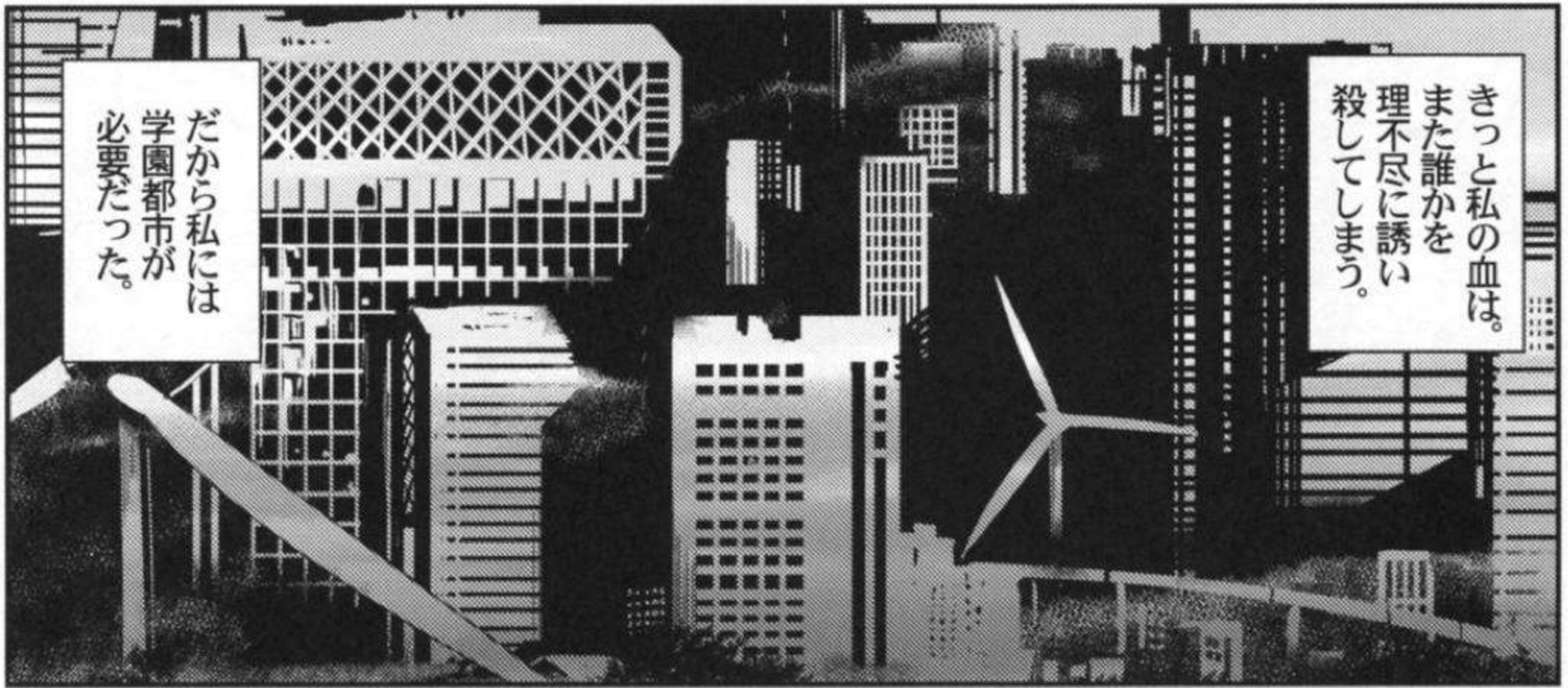
ごめんなさい



みんな

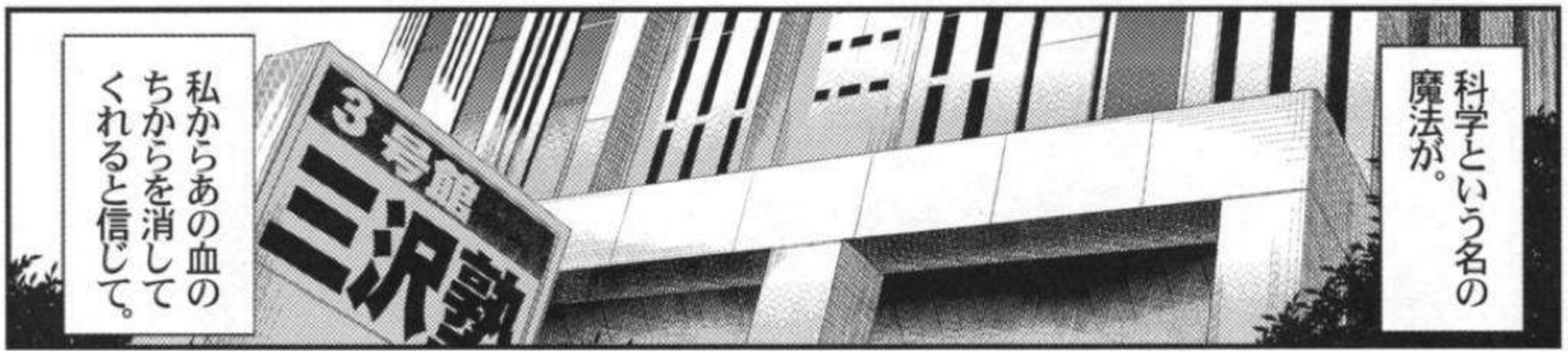
わたしがころした。





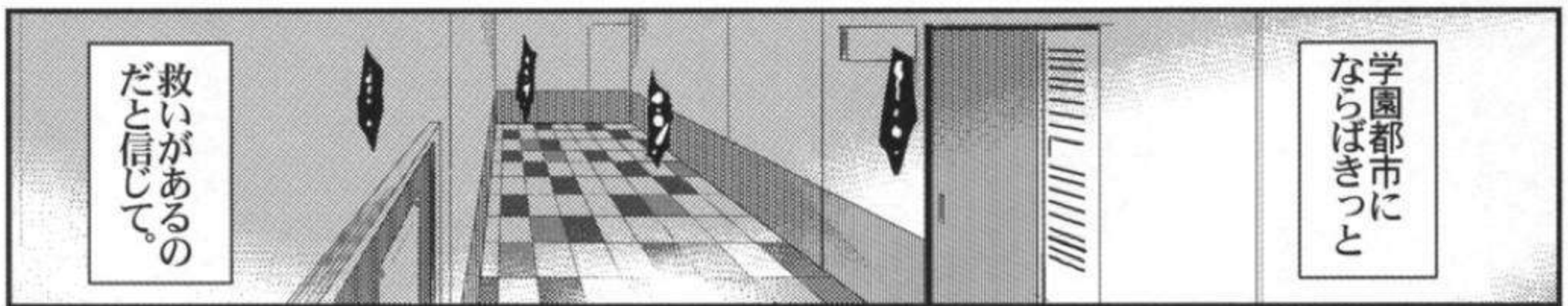
きっと私の血は。
また誰かを
理不尽に誘い
殺してしまう。

だから私には
学園都市が
必要だった。



科学という名の
魔法が。

私からあの血の
ちからを消して
くれると信じて



学園都市に
ならばきっと

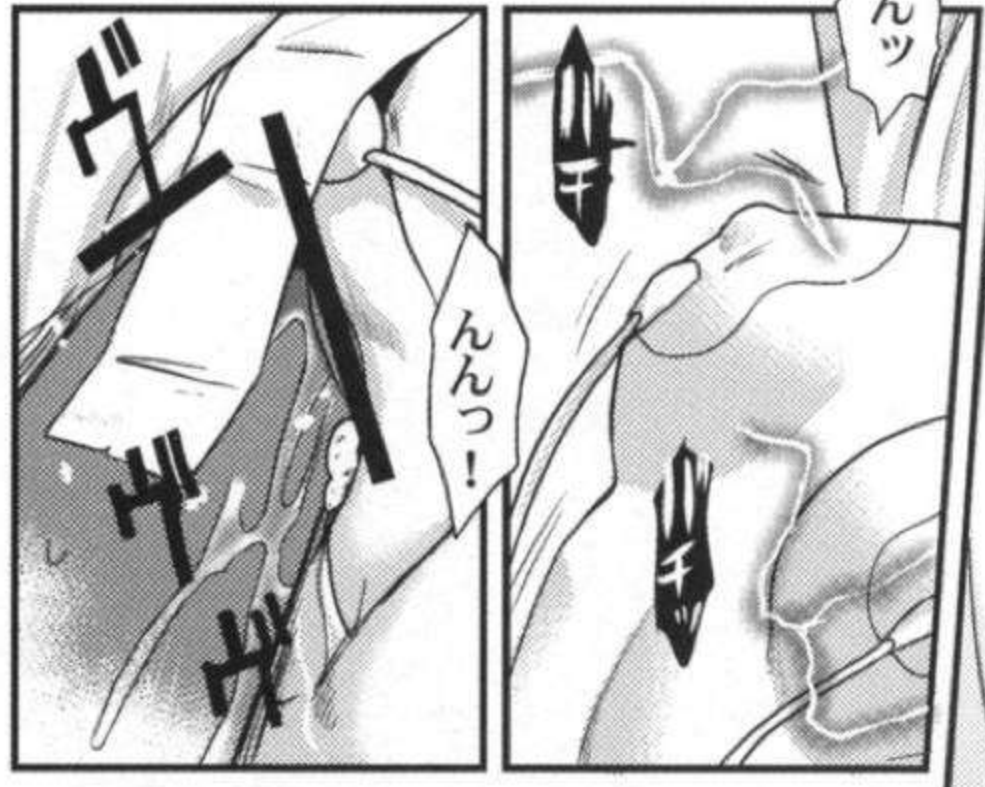
救いがあるの
だと信じて。



だけど。

与えられたのは
救いではなく。

罰





ハハ！見ろよ
イキやがったぜ？

先生、本当に
いいんですか？
こんなもん見せられちゃ
止まらないですよ？

なに
かまいませんよ。

これはいわば儀式です。
選ばれた君たち生徒が
より高みに上るための



その少女は
ある生ききものを
殺し尽くす化け物
だといひます

おわたり。

ばいもの。

そういつた存在を
蹂躪してこそ
選ばれた能力者と
いえるでしょう



ははは
ホントだ、これ見ろよ
グシヨグシヨだぜ

大丈夫
遠慮はいりません

見ての通り
ここまでされても
受け入れる
みだらな娘です

さあ、選ばれた君たちよ…
思う存分穢れを
吐き出しなさい



これは罰。



はぁっ！



そら秋沙
どうすればいいか
わかってるよな

はあ!?
今更清纯ぶってんじゃねえよ!
舐めてしゃぶって啜えんだよ!

……そう。

舐めればいいのね。

罰ならば



従うだけ。

は……

んっ

お……お?
おお!?

おおおっ!

あむ……

ん



お、俺も俺も!
俺のもしゃぶれよ
秋沙!

馬鹿野郎!
俺が先だ順番守れ!

ひやはは!
ほっぺすべすべしてら

んっ
びる

びる



こいつほんとに
巫女さんか？

つーか従順
すぎね？



うわ...
これはヤバイな

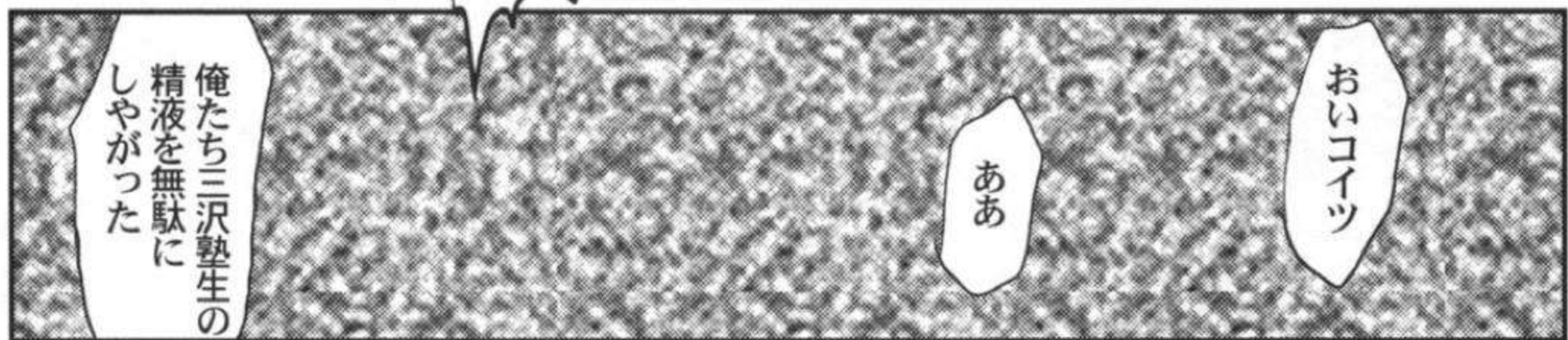


おっ！
駄目だ出るッ！

俺もだ！出すぞ秋沙！
口開けて受け止めろ！



んんっ



ふざけやがって
この淫売が！

押さえつけろ！
立場思い知らせてやる！

お仕置き
持ってきたぜ

よがり
狂わせてやる

よし
まずひとつ！

ふたーっ

んくっ！

みーっつ

あああつ！

よっっ！

チー
グー

ぎやははは！
すげえ！
入るもんだな！

さっきまでパイプ
啜えてただけあるぜ！

いま
が...

んぐ...

よし、まあ五つで
勘弁してやるか

隙間がねえと
入らないからな

か…は…

さっさと
じゃあ仕上げだぜ

ザザザザザ

ザザ



ザザザザ

くそ、ローターの
せいで浅くしか
入らないな

フツツ

ガ

ガ

ガ

ガ

あッ!!
あッ!!

かきくう

あッ!!

あッ!!

ホラ!
もつと締めろよ
姫神!

ひっ

はっ

おん

つてこの有様じゃ
聞こえてねえか?

はっ

はひっ

はま

はあッ!!

か
あ



おらあ！

あーっあ



後ろにも入れりや
締まるんじゃね？

おほ！ 名案！
よし来い！

びん



おおお
すげえ！
締まるしまる

つーか大丈夫か？
コイツ目え飛んでるぞ

先生も言ってたし
平気たる？

姫神ちゃん
おしやぶりも
忘れちゃ駄目だぜ

んんん
んんん

そうそう
全部の穴を上手に使ってね!



ああ、やっべ
俺もうイキそう

よし秋沙！中に出すぞ！
さつき粗相した分、
全部腹で受け止めろ！

!?

な…か
いや。
赤ちゃん…
できちゃ…

アホか！だから
孕めって言うてんだよ

や…
やめ

ああああっイク！
イクぞ秋沙あつ！



そら孕め
秋沙あ！

おらー出したなら
替われよ！

がんばれよ姫神ちゃん
あと十何人かいるからね

下すけ！

ほら休んでないで！
さっさとくわえんだよ！

俺も後ろがいいな

ちよWWW
変態WW



三沢塾の選ばれた
生徒諸君。

日々の精進には
かようなる供物が
捧げられる

諸君らには
導き手として
さらなる進化を
期待したい

科学とは崇拜し、
昇華するものである

ふふ。

グッ

その偉大な科学崇拜者の
することがこれ。

低俗。





お前が吸血殺し
姫神秋沙か…

寛然。

安心しろ
もうあのくだらん
連中は来はしない

三沢塾は
私が制圧した




必然。私がお前の
望みをかなえよう

かわりに
私に力を貸して
ほしい姫神秋沙

ある一人の
少女を救うために

「私が誰かを救う。」
その言葉は。

まるで
魔法のようだった。




だけど。
彼も魔法使い
じゃなかった。

私と変わらない。
ユメに破れた
弱い人でしか



邪魔た女…

死ね



魔法使いなんか
なれっこない

そんなユメは決して
叶わないのだと。

そしてわかった。
私は決して
救われないし
救えない。

なのに



たつた今諦めたはずの

なのに…

アムツル。



ユメの姿がみえるのだから。

結局。





ひめたるユメに
応うる神は。

あとがき

一番でかいコマに上条さんを使うという
エロ漫画としてはどうなのかという
仕様でお送りいたしました。

夏コミで姫神を出したら、
何故か邪魔者扱いされましたので
今回はメインにしてみました。
マジメに陵辱もの。
いかがだったでしょうか？

がんばったんです、コレでも。



不採用にした消し。

発行日： 2009/12/30

発行： ジンガイマキョウ

発行人： 犬江しんすけ

印刷： しまや出版様

Mail: inu_shins@kfd.biglobe.ne.jp

Home Page: <http://inu-shins.sakura.ne.jp/>

禁無断転載

18歳未満の方の閲覧はご遠慮ください。

二〇〇八年十二月
ジンガイマキヨウ
PRESENTS

